



農協だより

Vol.43

URL: <http://www.ja-aki.jp>

平成 22 年 3 月

広島県農作業事故撲滅推進大会開催

2月17日「広島県農作業事故撲滅推進大会」が中区のアステールプラザで行われました。

広島県における過去5年間の事故発生件数は年間800~900件で推移し3割が重大事故につながっています。なかでも61歳以上の事故が8割を占めており、管内でも平成20年には数件発生しています。講演では農作業事故原因の大部分が『不安全行動』で具体的には「運転中の機械等の掃除」「保護具、服装などの誤り」等があげられ、なかでもトラクターに係わる事故が最も多く重大事故につながっています。これらを防ぐには機械の動力を止めるなど手間がかかっても安全な行動をとる、注意散漫にならない様に2時間おきに休憩をとるなどがあげられました。最後に「農作業事故防止・安全啓発活動」に取り組み「農機使用時の安全確保」に努め、不慮の事故に備え農業労災等への加入促進が大会宣言されました。

第10回市長と農業者との懇談会

2月10日JA広島市本店において「地域農業を支える多様な担い手について」をテーマに開催されました。

市長より「農業は高齢化のため耕作放棄地の増加傾向にあるが、広島市食料農業農村ビジョンに基づき地産地消の推進や、生産者と消費者の交流、多様な担い手の育成として非農家への農業体験の場として市民菜園や市民農園の運営や新規就農者の育成を行っている。」と挨拶がありました。市内農業者5名の意見発表が行われ、当管内からは畑賀地区の熊野明美様が「花作りと地域活動への参加」をテーマに、昭和62年よりキク、ケイトウ、ハボタンなどの切花の栽培を始め、瀬野川農事研究会の花部会で活動する他、現在は活菜倶楽部へ花や野菜、リースなどを出荷しており、今後はビニールハウスを導入して切花を中心に栽培を取り組んでいくと発表されました。

農業講座受講生募集！



来年度も『野菜』の基本的な栽培管理や栽培実習を行い、実際に「見て」「体験」する野菜現地講習会を育苗センターで行います。受講生は初心者から出荷農家までを対象とさせていただきます。5月から12月までの月1回午前中に開催します。受講料は1人2千円、募集人数は20~30人の予定です。申込方法は、3月23日(火)より各支店購買部に申込用紙を用意しますので、受講希望の方は、4月16日(金)までに申込用紙を各地区購買センターへ提出して下さい。

稲作講習会

内容 ☆健苗育苗と田植後の管理まで
☆除草剤の効果的な使用方法について

* 午前の部・10:00より * 午後の部・1:30より

日程	3月8日(月)		3月9日(火)		3月10日(水)		3月11日(木)		3月12日(金)	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
会場	畑賀支店 2階	中須賀支店 2階	上瀬野支店 3階	阿戸支店 2階	東海田支店 2階	中野支店 2階	萩原支店 2階	瀬野支店 2階	新宮 老人集会所	初神 老人集会所



活菜倶楽部の講習会



平成22年2月8日畑賀支店、2月9日萩原支店、2月10日坂支店にて「春播き野菜の栽培講習会」を開催し、土づくりや野菜の品種と作型について紹介いたしました。出席者には、種を1割引きで販売いたしました。平成22年1月末の売上高は77,329,000円・売上点数は582,141点で年度末の目標に向かって頑張っておられます。新規会員も増えていますが、まだまだ会員募集中です。じゃんじゃん作って安全で、新鮮で、美味しい野菜を消費者の皆さんにお届けさせていただきたいと思っております。

土壌診断の結果報告



昨年末に受付をした方々に土壌診断結果を通知しました。診断件数は61件ありました。診断結果の紹介をいたします。

根の活力や分けつ、成熟を促進するリン酸は、目標値に達していた土壌が36%、少なかった土壌が18%、目標値以上にあった土壌が46%でした。稲を強くし病害虫から植物体を守るケイ酸は、目標値に達していた土壌が39%、少なかった土壌が61%でした。有害なガスから根を守る酸化鉄は、目標値に達していた土壌が10%、少なかった土壌が90%でした。地力の目安になる腐植は、目標値に達していた土壌が33%、少なかった土壌が67%でした。腐植の消耗、生産物の持ち出しで土壌の中の養分が不足している水田が多いようです。養分のバランスをとり健康な稲作りにお役立てください。

- 1/20 中野野菜生産者会で果樹の剪定実習 (右写真)
- 1/26 東広島市園芸センターにてすみれ会、ススキグループでの露地のトルコギキョウ栽培についての視察研修
- 2/1 瀬野女性部講習会
- 2/3 中野野菜生産者会講習会、ススキグループ講習会
- 2/5 すみれ会講習会
- 2/17 阿戸農事研究会 春播き野菜や春播き切花の講習会

活動報告！



3月営農メモ

野菜

播種できるもの

・ねぎ類やほうれんそう、ごぼうなどやトンネルを利用すればキャベツ、はくさい、だいこん、にんじんなどの播種やばれいしょの植付け、さともやかんしょの芽出しが行えます。はくさいやだいこんなどは発芽後から本葉10枚頃まではトンネル内が日中25℃以下になるととう立ちしやすいため、裾はきちんと密封する様にして下さい。

圃場

・追肥 えんどうまめは開花が見え始めた頃より追肥を開始します。たまねぎは早生では上旬に、中生、晩生では中旬に止肥を行います。止肥が遅れると貯蔵中の腐敗が多くなりますので、収穫75日前までに行ってください。

追肥に多木V化成を使用される場合1回に30g/m²を目安に施用して下さい。

病害虫

3月は気温も高くなり病害虫の被害が多くなり始めます。春雨が続いた場合には病気が圃場全体に蔓延し手遅れとなる事がありますので、見つけ次第早めに防除を行ってください。

○**べと病** 野菜全般に被害があります。葉の表側が部分的に黄色に退色し、湿度が高い場合葉裏に灰色状のカビが発生します。密植で通気の悪い箇所や、肥切れで生育不良となった場合被害が多くなります。Zボルドーやダコニール1000、リドミルMZ水和剤などを使用します。

○**白色疫病** たまねぎやねぎ類などで被害があります。葉先より白色に枯れ込み圃場全体に蔓延します。Zボルドーやダコニール1000、リドミルMZ水和剤などを使用します。

○**菌核病** 野菜全般に被害があります。キャベツでは葉柄のつけねに水浸状の病斑ができ、葉がしおれてきます。被害が進むと白い綿状のかびが発生します。結球部へ被害が進むと玉が軟腐してきます。トップジンM水和剤、ベンレート水和剤、ロブラール水和剤などを使用します。

農薬使用に当っては使用前に登録や使用方法を確認してから調整を行ってください。

4月中旬頃より春野菜の苗を販売しますので、植付け1ヶ月前頃より堆肥や土作り資材を施用し植付け準備をしておきましょう。

水稲

3月には種籾の配布が始まります。何年も種籾を更新していないと品質低下の原因になりますので、2年に1回は種籾の更新を行ってください。

塩水選

種子消毒の効果をより高めるため、塩水選を行いましょう。

水10ℓに対し塩を2.2kg(もちは1.2kg)を溶き、種籾を沈め水と充分馴染む様攪拌し、浮いた籾には不稔粒や病害虫の影響を受けたものが多いので、ていねいに取り除きます。

塩水選後は流水で塩分を充分に落としてから種子消毒を行います。すぐに消毒しない場合には充分乾燥させてから清潔な場所で保管して下さい。

種子消毒・浸種

水20ℓに対しテクリードCフロアブル100ml(200倍)+スミチオン乳剤20ml(1,000倍)を溶き、攪拌後消毒します。(籾15kgに対し、薬量20ℓ程度必要です。)

水温が10~30℃取れる場所で消毒して下さい。24時間後、風乾させてから浸種となります。浸種は最初の2日間は葉の効果をあげるため水の入替えはせず、3日目より水の交換を行ってください。(種籾の量が多い場合は上下の入替えも行って下さい。)

浸種開始後(種子消毒開始後)、水の積算温度が110℃程度で発芽が始まりますので、発芽を揃えるため30℃で24時間程度催芽を行い、芽が1mm程度に伸びた籾を播種しましょう。

果樹

柿

植え付け 柿を植え付けようと思って秋に植え付けられなかった方は、3月になると植え付けられます。休眠が覚めて樹液の動き、根の細胞分裂が行なわれ出すので、遅れないように3月中旬ころまでに植え付けます。植え付けについては、日当たりの良い所で水の溜まらない所にします。植え付けの1カ月前までに植え穴へ苦土石灰(2kg)、ようりん(1kg)、堆肥を入れて準備をしている場合は、20cmぐらいに盛り土をして、根をひろげて植えます。接木苗の場合は、接木部分は地上に出し深植えにしないようにします。植え付けの準備なしに植える場合は、植え穴を深く掘ると植えた所がへこみ水が溜まるようになるので浅く耕し盛り土にして植えます。植えた後は、苗木を地面から50~60cmの高さに切ります。また、斜めに支柱を立てて苗木が風等で揺れないようにしておきます

地温 根は春になり地温が上がると細胞分裂を開始して伸張が始まります。株元、圃場が草が茂っていると地面に日光が当たらず地温が上がらないので生育が遅れます。草は、刈り払って裸地の状態にします。

灌水 3月に降雨が少ないと根の細胞分裂、発芽の生育が遅れるので灌水を行ないます。

病害虫 柿の場合、樹皮の隙間にカイガラムシ等の害虫が潜んでいるので、荒皮削りをします。特に、枝の分岐している所をきれいにします。

接木 3月20日~下旬は柿の接木時期になります。12月頃に穂木を取り地面に穴を掘って埋めておいた穂木を使います。接木の方法は切り接ぎで行うと品種の更新、苗木作りができます。